一身田の新聞
発行　一身田地区社会福祉協議会
編集長　岡本博和

大丈夫？一身田の河川
市道の一身田町長岡線工事まもなく
みんなの便り　スマホの活用で街も人も元気に！

防災 大丈夫か？一身田の河川
志登茂川・毛無川の安全性は？

昭和49年の志登茂川水害は、昔から一身田に住んでいる人は誰でも覚えている。一晩で331ミリの雨が降り、志登茂川の水が溢れ、水勢は一身田全域に及び、南側の毛無川をも越えた。床上浸水1306戸、床下625戸もの被害であった。

志登茂川水害訴訟は住民側敗訴で終わったが、県による志登茂川改修工事の早期実施につなった。しかし、志登茂川の整備はまだ36パーセントしか進んでいない。河口から3・5キロの近鉄架橋までの区間の整備を優先的に進めていることは、本紙の6月号で紹介済みである。

なお、最近大きな浸水被害がないのは、河道拡幅や排水機場設置などの治水対策によってかろうじて守られてきたこともある。

志登茂川には、上流から今井井堰、新平野などの一二の樋門、平野、中野、一身田の街なか五の排水機場がある。実は、一身田の街なかを通る毛無川にも一二の樋門と一つの排水機場がある。それらは、市の管理もあるが、多くは地元の水利組合、自治会などが操作管理を受託している。農業用水として利用するためもあるが、曜日や時間帯に関係なく大雨、ゲリラ豪雨がやってくるので、設備を適切に操作し、流れ着く大量のゴミを処理して頂いている。地域を水害から守るために、強い使命感で取り組んで頂いているが、街で生活する住民の多くはその苦労を知らない。

川に落ちた木の葉は、水の流れに乗って悠然と伊勢湾に流れ着くように思ってしまうが、実は、その途中で流れをコントロールするための樋門やポンプ場を通過しており、ゴミは除塵機で取り除かれているのだ。これらの設備の多くは老朽化が進んでおり、何とか維持されてきている。

一身田地区自治会連合会では、こういう努力で街が守られていることを多くの住民が知っておく必要があるとの考えから、現地見学会と防災研修会の開催を計画している。

防災は「自助、共助、公助」が大切である。地域の安全を守る施設の実態について学ぶことも、立派な自助ではないだろうか。

毛無川の下流にある「めがね樋門」

毛無川の多くの場所の（堤体）のひび割れたところに水が染み込んでいる

志登茂園を流れる水路から毛無川への合流部。写真右端に平野区水利組合が管理している除塵機と排水ポンプ設備がある

見通しの悪い二百石橋付近

市道　一身田町長岡線の拡幅工事まもなく始まる

市道の一身田町長岡線（旧名　浜田長岡線）の道路拡幅工事がまもなく始まる。

この市道は昭和30年代の道路計画で、昭和35年から一身田団地が造成され、団地内には幅11m、片側1車線の道路が造られた。

その後、平成20年頃から岩崎病院南側から二百石橋までのわずか300mの距離が拡幅されたが一日3，700台余りの交通量があり、早期の拡幅が待たれていた。

拡幅工事は二百石橋から大古曽出屋までの380mの区間で、道路幅員9m、その内歩道が2・5m、車道6・5mで歩道と車道を分離する。毛無川に架かる二百石橋付近は急勾配のため対向車が見えづらく、しばしば立ち往生することもあったが、道路の勾配を4～6％にしてなだらかにする。令和2年度は大古曽出屋地区側から110mほどの区間で工事に着手する。国の交付金の絡みもあり、区間の完成年度は未定。また、通行止めにして工期を早めるか否かは今後地元民と相談するとしている。（津市建設部建設整備課）

就任ご挨拶
のばそう健康寿命　つながろう一身田の仲間と組織へ

一身田地区老人会クラブ連合会　会長　鈴木良次

戦後75年経て、昭和21～25年の戦後に沢山生まれられた方々の「団塊の世代」がこれから「後期高齢者」へ仲間入りされます。「超高齢化時代」を迎え、堺屋太一さんが指摘の「2025年問題」がスタート致します。

一身田の人口は5年前に比べ642名減少しました。一方で60歳以上の方は5年前と比較し78名増加しました。60歳以上が占める比率は2・1％アップし30・9％となりました。一身田の5年先の人口は更に減少しますが、高齢者人数は増加し、60歳以上が占める比率は34％弱に上昇すると予想されます。

津市の平均寿命は男82・1歳、女87・4歳と長寿社会となっています。「健康寿命」男78・7歳、女80・7歳を更に延ばすよう「健康講座」「体育・運動」「社会への参加」に取り組んでいかなければ成りません。

「一壽会」は誰のために有るのか、他でもなく「会員」のために有ります。「何に取り組むのか」それは3つの目的「健康」「友愛」「奉仕」を掲げています。具体的に「どう取り組むのか」それは一寿会活動と一身田町に熟成された仲間や組織への集う、学ぶ、繋ぐで「つながろう」を推進して行きます。「親睦旅行」「清掃奉仕」「友愛活動」「寿大学」「サロン」「歩こう会」「寄せ植え」「趣味の作品」「グランドゴルフ」「凧上げ大会」「運動会」「踊り」等に多くの方々の参加を期待しています。

浅田政志氏が撮った写真

浅田政志さん撮影「実はわたし・・・なんです」
アンコール写真展を開催

一身田商工振興会　会長　中川隆功

津市出身の写真家浅田政志さんがモデルになり、一身田でもロケが行われた映画「浅田家！」の公開に合わせて、一身田商工振興会では、浅田さん撮影の「実はわたし・・・なんです」アンコール写真展を開催します。

一身田に住む町のひとたちを主役にしたユーモア溢れる全36点の写真を参加店舗の店頭に展示します。浅田さんの作品が見られるのは一身田だけですので、ぜひ、お店を巡ってください。またお店でお買い物をすると、それぞれの写真が掲載された特製カードが貰えます。カードを集めると、浅田政志さんサイン入り新作写真集や国宝記念メダルなど、素敵な景品が貰えるカードラリーも実施します。10月3日から来年1月16日まで開催。受付は、高田本山境内の茶所　蓮心庵にて。景品はなくなり次第終了します。

コミュニティバス高田本山前まで延伸
みんなの声が行政に届く

令和3年4月からコミュニティバスが高田本山の前を走ることになった。

これはコミュニティバス網の全市的な見直しの中で実現したもので、河芸総合支所を起点にかわきた苑、西豊野（今井）、本山前、一身田郵便局前、岩崎病院前を経て、一身田団地を通り抜けて北部市民センター、セノパーク、白塚駅へと走る。

河芸南ルート図　週3日　一日4往復走る

7月17日に行なわれた市の説明会では、高田学苑前を左折して本山前は通らないルートだったが、出席者が声を揃えて要望したため変更が実現した。

地元としても積極的な利用と客を増やす努力が求められる。

チャレンジショップ　オープン

仲ノ町通りに5月、新しくチャレンジショップ「FAMIE　LAND」がオープンしました。旧野田屋文具店だった店舗を改装し、県内の約60件のクリエイター（作家）さんたちが、手作り雑貨を中心に様々な楽しい商品を提供しています。下津醤油や野田あられなどの地元特産品も扱っています。また日によって、パンやお弁当・お菓子などの出張販売もあります。

一身田町2762番地
電話261　7344
インスタグラム「fam.iland」で

一身田寺内町来訪者調査から分かったこと

高田短期大学キャリア育成学科　教授　中畑　裕之

真剣な眼差しでアンケート調査を実施

みんなの便り

高田短期大学オフィスワークコースの中畑ゼミでは、2018・19年度に一身田寺内町来訪者調査を行いました。その結果の一部を紹介します。

来訪者のお住まいの地域は寺内町まつりでは津市内80・6％、鈴鹿市・亀山市4・0％、お七夜では津市内71・6％、鈴鹿市・亀山市12・9％、松阪市4・6％と多くが津市内、近隣市からとなっています。

一方、非イベント時では津市内は32・7％に止まり、愛知県18・8％、近畿圏11・9％、関東・東北・北海道11・9％など広域からも来訪されていることが分かりました。

年代層を見ると、寺内町まつりでは10代が19・4％、70代19％、40代16・1％、60代15・7％、50代13・2％、お七夜では60代18・5％、70代17・7％、40代15・8％、10代13・4％などとなっています。幅広い年代の方が来訪しており、家族・親戚、友人・知人で集って来訪している方が多いためとみられます。但し、20代は少なく、寺内町まつりでは1・9％、お七夜では5・6％のみでした。非イベント時では60代が28・7％、50代21・8％、40代13・9％、70代12・9％と中高年層が多く、来訪目的を見ると高田本山へのお参り（74・3％）と併せて、観光（43・6％）、街の散策（40・6％）となっています。

若者も来る街にどうしたらできるか、非イベント時にも楽しめる街にどう磨いていくか、より広域に情報をどう発信していくかなどが課題と考えられます。

QRコードで地域を盛り上げよう！

寺内町の館　小林伸生

QRコードを、ご存知ですか。皆様良くご存知のバーコードは、横になぞって十数桁の数字を読み取ります。

身近な例では品物にメーカーや、商品の種類を数字で表現し、レジの効率化に活躍しています。

これに対し、QRコードは2次元バーコードとも呼ばれ、縦横の平面を使い、英数字、漢字等を一般的に百文字程表現しています。

最近主にインターネットへの接続手段として広く活用されています。スマホのカメラでQRコードを読み取る事で簡単に目的のページに繋げる事が出来ます。チラシ、パンフレット等にQRコードを併記して関連ページへの接続を促すのは現在の一つの活用例です。このQRコードは工夫次第でもっと便利な活用法が考えられます。生活に直結した便利な使い方、必要な情報を身近に即座に得られる使い方です。共に広く普及したインターネットとスマホをQRコードで結びつける事で可能となりました。食堂の入り口に立派なショーウィンドウが無くてもQRコードの掲示だけでメニューを入店前に知らせる事が出来ます。値札の横に表示したQRコードで商品の詳細情報を提供出来ます。

寺内町の名所案内をその場に掲げたQRコードを使い肉声で出来ます。又、声の出る新聞も 出来ます。

皆様方の協力によって一身田を楽しく活気ある町に出来たらと願っております。色々な提案、相談事を持って寺内町の館を気楽に訪問してください。一身田の未来を互いに語ると共にご協力をお願い申し上げます。

今、一身田公民館では！　そして、今後は？

公民館講座等の状況

一身田公民館主催の公民館講座は、地域力創造セミナーと教養セミナーの2種類があります。地域力創造セミナーは、地域を活性化すること、人づくりや人材の育成を目指した講座で、「寿大学」と「音楽療法教室」、「笑いから始める健康法」などの6講座があり、259人の方が受講されています。

教養セミナーは、自分の興味や関心に合わせて、生きがいづくりを目指す講座で、「着物の着付け」、「抹茶」、「和裁」など11講座があり、140人の方が受講されています。

本年度から詩吟の「万葉戀歌を吟じよう」の講座が新しく開講しました。また、公民館講座修了生で組織する「自主講座」が年間通じて活動されています。

自主講座は、絵てがみ、華道、着付けグループなど12団体、177人の他、講座出身団体など一般講座10団体、94人の方が活動されています。

一身田公民館は、皆さまのご協力のもと施設整備が全て完了し、自治会、商工会、文化団体、スポーツ団体など新たな利用者が増加しています。また、施設整備中は他の公民館を利用してもらっていた自主講座などのグループも、一身田公民館に戻ってきてもらいました。

次年度の計画として、一身田寺内町ほっとガイド会のみなさんのご協力で、「（仮称）一身田歴史講座」を開講したいと考えていますので、ご期待ください。今後も新しく整備された施設が、より一層地域のみなさんに愛され、多くの方に利用していただけるよう、公民館講座等の充実にも努めてまいりますので、みなさんのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

（一身田公民館長　鈴木達也）

※

公民館講座活動の一部を紹介します。

観光懇話会でも議題

9月15日、寺内町の館で観光振興懇話会（会長　中西万喜夫氏）の会議が開催され、議題の一つにスマートフォンで地域を活性化させようとする小林伸生氏の提案を受け、より具体的に取り組む方策を検討した。

結果、まずは津市や商工会が所有している案内版にQRコードを掲げて目と耳で情報を提供する。その後、商店にも拡大させる。高田短大と連携を密にするが年齢を問わず広く協力者を求める等が決められた。

運用は令和3年1月のお七夜からの予定。

自主講座「キーボード演奏」

代表　田邊　均

鈴木眞澄先生　ますます熱が入る

楽譜が読めない、楽器は苦手、でも何か一つ楽器が弾けたら・・そんな願いを叶えてくれる講座です。この講座も開講から15年以上になりました。現在の指導者は、鈴木眞澄先生です。生徒数16名。練習は毎月第一・第三水曜日9時30分～11時30分まで。今年の練習曲は、エデンの東、エリーゼのために、メヌエット等です。グループレッスンが基本鍵盤楽器に触れるのが初めてでも、好きな曲が弾ける楽しみを味わっています。公民館文化祭には、毎年、新曲を交えた演奏で参加。公民館改修で、昨年度までは豊里公民館での練習でした。今年4月からは新しくなった館で、新たな気持ちで練習。新型コロナウイルス感染予防にも努めています。生徒の皆さんは、「一曲、一曲レパートリーが増えていくのが楽しいです。先生がほめてくれるとやっぱりうれしいねぇ（笑）」。

体験・受講大歓迎です。

格式高い　5本線の土塀

本山　ここもすごい！

皆さんは高田本山の塀に白い5本線が入っているのをご存知ですか？実は、この5本線はデザインではなく、深い意味があるのです。

正式には筋塀（すじべい）といい、定規筋（じょうぎすじ）と呼ばれる白い水平線を入れた土塀のことで、御所や門跡寺院に用いられ、格式の高さにより数を増やし、5本は最高の格式をあらわしています。

天保15年（1844）に唐門が棟上げされた頃の筋塀は、現在の線より少し細い棒状の作りで塀に埋め込まれていたようです。専修寺の門跡号が初めて認められたのは天正2年（1574）高田派第12世堯慧（ぎょうえ）上人の時でありました。当時、その直近5代の門跡が親王家から入室し、いずれも宮号を称しておりましたので、特殊な門跡寺院で、東海地方唯一の寺格の優れた寺院でした。

その後、廃仏毀釈の流れから明治4年（1871）に門跡号が廃止れましたが、明治13年（1880）には賜春館を行在所として明治天皇が行幸され、明治13年（1885）には、門跡号を復称されて現在に至っております。

いつか、再び天皇陛下に行幸していただきたいものです。

高田本山専修寺
広報課　玉野章法

高田本山　特別法要

高田本山では来る2023年（令和5年）5月21日～28日の8日間特別法要として親鸞聖人御誕生850年、立教開宗800年、真慧上人500年忌、聖徳太子1400年忌の法会を執り行います。講演会、稚児行列等を計画しております。にぎやかにご参詣下さい。

新講座「万葉戀歌（こいうた）を吟じよう」

講師　加藤龍宗先生

「初春の令月にして、気淑く風和らぐ」万葉集5巻、梅花の歌32首の序文の一節である。ここより「令和」の元号が引用された。今までのそれは漢籍（中国の古典）から選ばれてきたが、初めて国書からのものである。

万葉集は奈良時代、大伴家持等の手によって編纂された最古の歌謡集（和歌、長歌、施頭歌等）であり、人々の心の躍動が詠われている。天皇貴族から庶民にいたる万民の歌4516首が、20巻にまとめられている。世界に誇る文化遺産といえる。その中に多くの戀歌があり、人間の生々しい情愛を美しく、時には哀しく詠っている。

人を戀（いっく）し、全てのものを愛しむ心は、万葉の時代も今も全く変らない、いや現代以上に自由であり、おおらかであると感じる。万葉戀歌にふれ、心豊かに、人生を楽しみませんか。心が委縮しそうな時だからこそ、万葉の人々の心にふれてみましょう。

（加藤龍宗）